第十五回 玄和全国競書大会優秀作品

白戸　香風

審査所感

今年も11月23日勤労感謝の日に玄和文化院に於きまして審査が行なわれました。

本年度の出品点数は、一般部半紙・条幅合わせて約1000点、学生部は幼年から高校生まで約2050点の応募がありました。

午前は第一次審査と第二次審査があり複数枚出品作品は、一枚一枚めくり細やかな審査を致しました。昼食後は、第三次審査で賞の決定となります。

まず学生部は高学年からの審査でしたが、高校生は古典の臨書、漢字、仮名、近代詩とバラエティーに富み、半紙サイズを効果的に使った作品や古典の筆法で創作性の高い作品など、レベルの高さに驚きました。中学生は、楷書、行書、少数ではありましたが古典の臨書もあり、筆の使い方が大人顔負けの作品など、ハイレベルの戦いとなりました。小学生は、力強い作品、学生ならではの伸びやかなものが多く、題材の楽しい作品も数多く見られました。どのブロックも賞の決定は同点決戦が多く、甲乙がつかない時は、2枚目、3枚目の作品で決着をつける場面もありました。惜しくも落ちた作品の中に名前が小さ過ぎたり、雑に書かれていたものがあり、大変残念に思いました。名前も作品の一部と考えて書くように心がけていただきたいと思いました。

―― 玄和書道会賞 ――

田中　菊代

藤井航之郎（高三）

榊原　未唯（中三）

水村　正康（小四）

黒川　歩美（小三）

続いて一般半紙ですが、古典の臨書作品は特徴をとらえた佳品もあり、仮名作品は紙や墨にも工夫が見られ、多くの作品が小品として魅力あるもので感心いたしました。審査も終盤となり、小休憩を入れて条幅の部となりますが、毎年思うことは、レベルの高さです。一枚で最大限のアピールをする。複数枚で漢字一行、二行、三行を書いてアピールする。また漢字、仮名、近代詩とジャンルを変えてアピールをするなど様々です。同点となると二枚目で、また同点であれば三枚目で同点決戦となった場面もありました。毎年ですが、一点の重さを痛感する一瞬です。上位入賞作品を見ますと、内容が豊かで、行の流れ、躍動感など変化に富んだ作品が高得点となったと思います。

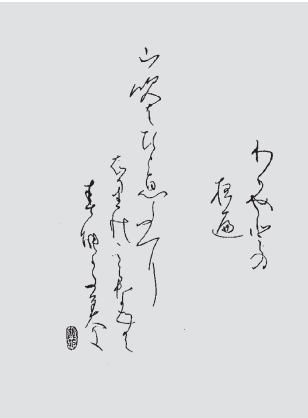
全ての審査が終わり感じたことは、学生部、一般部、共に完成度の高さです。…どれだけ書いたのだろうか…

と、単純に思いました。ご本人の日々の努力、指導された先生の情熱が作品から伝わって来ます。

良質の誌上展になりましたこと、出品された皆様、見守られたご家族の方々、そして指導にあたられた先生に感謝を申し上げます。次回も日頃の成果として、ぜひチャレンジしていただきたいと願っております。

審査委員長　明石　幸子

―― 春　浦　賞 ――



佐々木鶴苑

岡野伊予子

中村　秀月

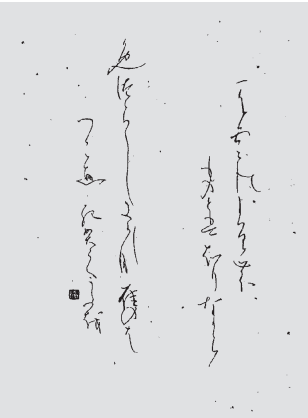
ケレハー加央里（高一）

杉谷　健誠（小二）

宮川ひより（小五）

佐藤愛香音（中二）

―― 玄和書道会会長賞 ――



江部　澄峰

高橋　正弘

藤田　朋果

野井　翰娜（高二）

福岡　　憐（小一）

金田莉里花（小六）

山崎　　遥（中一）